

48. 離島地域における精神障害者の就労ニーズに関する研究

- 波名城 翔（宮古島市役所福祉部障がい福祉課）
森田 康雅（沖縄県立宮古病院地域連携室）
増田 準（沖縄県立宮古病院精神科デイナイトケア室）
南風原 礼（相談支援事業所ひらら）
松原 徹也（旧所属：訪問看護ステーションサンライズ 現所属：小坂病院）
飯島 涼平（旧所属：宮古島市役所福祉部障がい福祉課 現所属：無）
伊地 高洋（旧所属：沖縄県宮古福祉保健所精神保健班 現所属：沖縄県総務部財政課）

【背景と目的】

障害者総合支援法の制定や障害者雇用促進法の改正等によって、精神障害者の就労の場は広がりを見せているが、離島地域においては、企業や福祉事業所の数が乏しく、精神障害者の就労の場は限られている現状がある。本研究では、宮古島内で実際に働く精神障害者の現在の就労状況と将来の就労ニーズを調査することで、今後の離島地域の障害者の就労への示唆を得ることを目的とした。

【研究の必要性】

宮古島等の離島地域では、精神障害者が就労するための施設や企業が限られている。そのため、施設等で働く精神障害者が現在の就労環境（労働内容、賃金等）や将来の展望について調査することで、精神障害者が置かれて就労の現状を把握するとともに今後の就労状況の改善に向けて取り組むことができると考えられる。また、この研究は、日本に多く存在する離島地域の精神障害者の就労問題に活かすことができる点から社会的に大きな意味を持つ研究であると考えられる。

【対象地域の概要】

宮古島は、沖縄本島から南西に 300 km に位置し、大小 6 つの島で構成されている。人口は約 55,000 人、平成 26 年度の自立支援医療（精神通院医療）受給者は 824 人である。

【研究方法】

（1）文献研究

平成 26 年 6 月から 12 月にかけて先行研究を調査した。

（2）離島調査

宮古島と同規模の島である石垣島の支援者にインタビュー調査を行った。

（3）インタビュー調査

文献研究及び離島調査から得られた情報を基にインタビュー項目を作成した。平成 26 年 3 月から 8 月にかけて宮古島内の支援機関を通じて協力者を募った。協力者には当研究の研究者が直接インタビューを行った。尚、インタビューの際に、倫理的配慮として、守秘義務があること、いつでも辞退できることを説明し同意を得て調査を行った。

【結果】

(1) 先行研究及び離島調査の結果

真喜屋らが1987年に、宮古病院精神科外来初診患者の発症の場所について調査を行っており、島外で発症した患者は、1975年には約46.7%、1980年には34.5%、1985年には62.2%存在していたことを明らかにしている。

次に、高林は2009年に宮古島の精神障害者へインタビュー調査を実施しており、本土での発症後に帰島し、宮古病院を受診している結果を報告している。また、同調査では、精神障害者の帰島後の生活にも触れており「農業の手伝いや作業所に通い、生活の幅を広げ、健康の保持・増進を果たしている」と述べているが、帰島後の就労については述べていない。これらの結果を踏まえ、同規模の離島である石垣島の関係者にインタビュー調査を実施した。その結果、発症後帰島するケースが多いことなど宮古島と同様の状況があることがわかった。

(2) インタビュー調査結果

先行研究及び離島調査結果を基にインタビュー項目を作成した。インタビュー項目は、「1. 基礎情報」、「2. 個人歴」、「3. 現在の就労状況」、「4. 理想の就労」、「5. 宮古島で生活することについて」の5項目で構成した。

① 基礎情報

インタビュー協力者は48人（男性37人、女性11人）であった。年代別では、20代2人、30代14人、40代12人、50代18人、60代2人で、50代が一番多かった。出身地では宮古島出身が43人と最も多く、沖縄県内出身が4人、沖縄県外出身が1人であった。居住形態では、家族と同居が27人、次いで単身18人、グループホームが3人であった。疾患名では、統合失調症が38人で最も多く、次いで感情障害4人、てんかん2人、解離性同一障害、アルコール依存症、薬物依存症、高次脳機能障害がそれぞれ1人であった。

障害年金受給率については、受給中67%で約7割が障害年金を受給していた。精神保健福祉手帳所持率では、2級が56%と最も多く、次いで、1級19%、3級が15%と約9割が精神保健福祉手帳を所持していた。また、生活保護受給率では、受給無しが77%と約8割が生活保護を受給せずに生活していた。

現在の主な就労（通所）先（複数回答あり）では、就労継続B型事業所が最も多く32%、次いで、地域活動支援センター26%、一般就労・自営業13%、生活訓練施設11%、その他7%、就労継続A型事業所5%、精神科デイナイトケア3%であった。

② 個人歴

最終学歴を見ると、高校卒業が最も多く46%、次いで中学卒業19%、高校中退13%、専門学校卒業8%、大学中退と大学卒業がそれぞれ6%、専門学校中退は2%と、約7割が高校卒業以上の学歴を有していた。次に職歴では、47人が職歴を有しており、接客業から電気工事や溶接などの専門業など47種類の職歴があった。発症場所では、宮古島内が44%、沖縄県内が23%、沖縄県外が33%で、約6割が宮古島外で発症し、男女別では、男性の65%が宮古島外で発症していた。島外発症者27人の帰島理由については、体調不良が59%と最も

多く、家庭の事情が 22%人と、調査協力者の多くが体調不良を感じて帰島していた。

③ 現在の就労状況

現在就労中の 37 人から回答を得た。現在の仕事内容の種類として、一般就労（自営業）と福祉的就労に分類した。一般就労（自営業）では、農業や警備会社、土建会社、施設屋外の清掃整備の 4 種類があげられた。福祉的就労としては、黒糖作り、公園の清掃、かご・ペットボトル洗い、らっきょ・ニンニク加工、クッキー作りなど体力仕事や屋内での加工等 8 種類があげられ、以前の仕事とは違う仕事をしている者が多かった。

就労日数は「週 5 日」が 57%と最も多く、次いで「週 3 日」が 16%で約 6 割が週 5 日働いていた。就労時間では、「4 時間」が一番多く 30%、次いで、「5 時間」、「6 時間」が 27%であった。現在の給料額では、「5 万円以上」が最も多く 24%、次いで「3 千円未満」、「5 千円以上 1 万円未満」が 22%、「1 万円以上 3 万円未満」が 19%であった。

現在の仕事満足度では、「ほどよい」が一番多く 38%、「満足」が 32%、「とても満足」が 19%と就労（通所）者の約 9 割が現在の仕事に満足していた。

④ 理想の就労状況

理想の就労状況では、48 人から回答を得た。「週 5 日」が最も多く 63%、次いで「週 4 日」、「週 3 日」が 10%だった。就労時間で見ると、「4 時間」が最も多く 23%、次いで「8 時間」が 21%、「5 時間」が 17%であった。次に理想の給料では、「5 万円以上」が最も多く 65%、次いで「3 万円以上 5 万円未満」が 11%で、平均値は 89,855 円であった。前述の現在の就労状況と比較すると、就労日数及び就労時間については概ね同じ値もしくは現在より多く（長く）働きたいという結果であった。また、理想の給料では、65%が 5 万円以上を希望しているという点で現実と理想に大きく差があった。

一般就労の希望では、希望する者が 67%と約 7 割が一般就労を希望していた。一般就労する際の障害の開示については、「開示する」が 91%と最も多く、開示する理由としては、「障害を隠したら隠し続けられないといけないから」、「病気のことを知ってもらったら仕事しやすい」など、精神障害について理解を求める一方で、「開示しない」の答えでは、「自分が病気と知ったら働かせてもらえないかも知れない」という意見もあった。

今後やりたい職業としては、料理人や電気工事、建築業など発症前の職業を答えた者が多く、現在の職業と同じ仕事を希望する者は少なかった。理想とする職場では、「相談できる職場」、「障害をオープンにできる」、「通院ができる」など精神障害に理解を答える者が多かった。また、就労時に欲しい外部からのサポートでは、「ジョブコーチ」、「電話や職場に来て相談してほしい」、「企業に自分のことを紹介してほしい」など、身近な相談相手、支援者としてのサポートを必要としていた。

⑤ 宮古島で生活することについて

宮古島で生活する上でのメリットでは、「地域の和が取れやすい」、「性格がいい人が多く、助け合って生きていける」など人間関係や地域性についての答えが多かった。デメリットでは、「噂がすぐに広まる」、「仕事が少ない」など小さい地域としての問題があげられた。

次に宮古島で住み続けることの希望の有無では、「有り」が 86%と最も多く、理由として

は、「宮古島が好きだから」、「知り合いもいるので安心して働ける」、と宮古島で今後も生活することを決意している者が多かった。希望なしの意見としては、「いろんなことがあってできれば働きたくない」、「宮古は仕事が少ない」、「都会にいつてみたい」などがあつた。

【考察－宮古島の精神障害者の現状と就労ニーズ】

「1. 宮古島の精神障害者の現状」、「2. 就労」、「3. 収入」、の項目から考察した。

1. 宮古島の精神障害者の現状

先行研究及びインタビュー調査結果から、宮古島の精神障害者は、高校卒業後に宮古島外で働き（進学し）、人間関係等の生きづらさから体調を崩し（発症し）、本人自身や家族等の身内からの働きかけによって帰島後、宮古島内の精神科受診へと至っている。また、精神科受診後は、宮古島で働きながら生活を送っていきたいという希望を持っている者が多いことから、宮古島に帰島した精神障害者が一生働けるような環境を作ることが必要であると考えられる。

2. 就労

インタビュー協力者のほとんどが発症前に多くの職歴を有しており、合計で47の職種が示されたが、現在の仕事内容では、農業や公園の清掃や手作業などの体力仕事と言つた所謂、福祉的工作に限られており、職歴を有する仕事をしている者は少ない。しかし、今後やりたい職業として、以前の経験のある職業を答えている者が多かったことから、本人の希望と現状がマッチングしていない可能性が高いと考えられる。また、一般就労を希望し、精神障害の開示を行う有無に関しては、障害を隠して働くリスクを考えて約9割が開示すると答えている。この事から就労については自分の経験のある職種、精神障害を開示し、一般就労で働きたいと望んでいると考えられる。

3. 収入

理想の収入については、現在の収入との差が大きくあつた。インタビュー対象者の情報から分類分けを行い、答えた金額をSPSSにて分析し平均額を表1に示した（母集団の少なかった「グループホーム」及び希望金額を「分からない」と答えた者は除外）。前述したように全体の平均額は89,855円であつたが、「家族と同居＋障害年金受給」をしている群の平均値は、78,781円と最も少なく、次いで「家族と同居（年金）受給なし」群の平均値は88,333円であり、全体の平均値より低かつた。希望金額が最も高いのは「単身（年金受給無）」群で122,000円と「単身＋障害年金受給」群の94,833円であり、単身群は全体の平均値を上回つていた。以上のことから、家族や障害年金受給などの社会資源が多い者ほど希望金額は低いと考えられる。

次に、男女比についても同様に分析し表2に示した（理想給料額を「分からない」と答えた者は除外）。表2から理想の給料額の平均値は男性が100,361円、女性が47,833円で男性の方が就労に対する給与希望が高いと考えられる。

表1 居住形態、年金受給別の理想給料額

| 居住形態 | 年金受給 | 平均値 | 度数 | 標準偏差 |
|-------|------|-------------|----|-------------|
| 単身生活 | 無 | 122000.0000 | 5 | 50571.73123 |
| | 有 | 94833.3333 | 12 | 44224.29060 |
| | 合計 | 102823.5294 | 17 | 46333.35097 |
| 家族と同居 | 無 | 88333.3333 | 9 | 64468.98479 |
| | 有 | 78781.2500 | 16 | 73485.36561 |
| | 合計 | 82220.0000 | 25 | 69154.72989 |

表2 理想給料額の男女比

| 性別 | 平均値 | 度数 | 標準偏差 |
|----|-------------|----|-------------|
| 男性 | 100361.1111 | 36 | 57707.21806 |
| 女性 | 47833.3333 | 9 | 47910.07201 |
| 合計 | 89855.5556 | 45 | 59311.06579 |

【まとめと今後の課題】

本研究では、離島地域の精神障害者の就労への示唆を得ることを目的に宮古島の精神障害者の調査を行った。その結果、先行研究と同様に発症後帰島するケースが多く、就労のニーズや収入について9割が現状に満足していると答えながらも、将来に対する就労の「希望」を持っていることが示唆された。今回の調査で得られた知見を踏まえ、福祉事業所や企業との連携を構築し、宮古島の精神障害者の就労の希望の実現に向けて取り組んでいくことが今後の課題である。

【謝辞】

本研究の実施にあたり、研究助成を頂きました公益財団法人大同生命厚生事業団様、また、調査にご協力を頂いた当事者及び支援者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 真喜屋浩, 下地明友, 山本和義, 一乃渡尚道, 土屋道哉, 立花正一: 「宮古病院精神科外来初診患者動態(昭和50年, 55年および60年の比較)」: 宮古病院精神科『開設20周年記念誌』, 沖縄県立宮古病院, 1987.
- 2) 高林秀明: 「失業・地域・貧困化と地域福祉-宮古島の精神障害者調査から-」: 熊本学園大学社会福祉研究所報, 2009.

【経費使途明細】

| | |
|---|----------|
| 文献収集旅費(宮古-那覇×2) | 58,400円 |
| 離島地域の視察(宮古-石垣×3)、(宮古-那覇×3) | 100,608円 |
| 謝礼金(講義講師3000円、協力事業所1000円×3、調査協力者500円×48人) | 30,000円 |
| IBM SPSS Statistics GradPack | 139,752円 |
| 書籍(2冊) | 5,400円 |
| 消耗品費(インク代、文具等) | 7,071円 |
| 通信費(郵送代) | 984円 |
| 会議室(2回) | 11,060円 |
| 合 計 | 353,275円 |
| 大同生命厚生事業団助成金 | 300,000円 |